

# わたしの好きな 那須平成の森

シロヤシオが清楚な花を咲かせていた「那須平成の森」の開園日、5月22日。あれから私たち16人のインタープリターは、たくさんのお客様とともに暑さ知らずの夏を遊び、カエデやナラの紅葉を愛で、いまは一面の銀世界を愉しんでいます。

人は十人十色といわれますが、森の個性もいっぱい。活動の一部ですが、ご紹介させていただきます。

## 新緑の中でうつむいて咲くのは・・・



私たちインタープリターのベストの胸元にあるワッペンにはシロヤシオがデザインされているのをご存知ですか？

シロヤシオは純白の花弁に鮮やかな緑の蜜標(みつひょう)が、まるで少女のそばかすのようで大変愛らしい花です。蜜標は花粉を虫に運んでもらうために「ここに蜜がありますよ～」とアピールする店頭看板のようなもの。ニクイ戦略ですよ。(山宮)

## 子どもの目線でみた森は

「トトロがいる」、決然たる声で言った小学2年生の彼の目線の先には、小さな樹洞がありました。中に枯葉が敷き詰められ、手を入れると、ほのかに暖かさを感じます。その後、彼にとってこの森はトトロが暮らす森になりました。一人一人の好奇心がフル回転するのは、多種多様な生物が共生している、この森の魅力によるものなのでしょう。(安田)



## 特別編だからこそ、みられることがある

来年の特別編、僕は何をしようか。そうだ、「菌類」の魅力をみなさんにお伝えしよう！と、楽しみがひとつ増えたところです。

特別編は時間が長いのでできることが増えるんです。そこで、僕は大好きな「菌類」なんです。菌類ってホントにおもしろいんですよ。例えば、きのこの下はどうなってるか？ 胞子はどうやって飛ばしているのか？ 動くきのこって知っていますか？？ 気になった人は、ぜひ、ミギーの特別編にご参加ください。(右田)



## 「見る」だけでなく、「触れる」「聴く」など

那須高原ビジターセンターで動物になってみませんか？ 動物の手袋をはめて、森の音に耳を澄ませば森の中にいるような気分になりますよ。他にも、山を歩いてみたり、昔話を聞いたり…豊かな自然環境が残る那須・甲子地域の拠点として、自然やこの地域に興味を持ってもらい実際の散策に役立つような展示を来年度も続けたいと思います。(宮崎)



## 大きな輪をつくりましょう

那須湯本には、地元・旅行中・登山など大勢の方がお越しになります。そんな方々が那須高原ビジターセンターに集い、雑談やタイムリーな情報を交わし、人と人の輪を広げて欲しいと思っています。そうなるように私は、那須高原ビジターセンターに来館した方が「また来たい！」と思えるような場づくりをしていきたいです。(増子)



## 紅葉と落ち葉は紙一重

ふれあいの森は、10月中～下旬に紅葉の見ごろを迎えて11月には落ち葉の季節となりました。

紅葉のピークと共に秋雨、木枯らしで、「紅葉を見に行こうよ～！」なーんて言っている間に、たちまち落葉に…。そんな寒々とした木々もよく見ると赤い実がたくさん。アオハダ・カマツカ・ミズキなど10種類以上の樹木が秋の森を彩りました。来年もまた、色づく森が楽しめますように。(山本)



## 冬のプログラムを実施中！

人の気配が少ない季節、冬。野生動物は生き生きと活動しています。木々の芽に目をやると、今にも動き出しそうな強い息吹を感じることがあります。

雪の中、スノーシューで森を歩けば、自然の静と動を同時に味わうことができます。こんな素敵な時間を体験しないのは、もったいない。ぜひ、冬の平成の森へお出かけください。(中園)



## 10月21日アトリ初認

アトリは冬鳥で、晩秋から3月頃にかけて日本などで越冬します。オレンジ色が目立ちますが、他に白や黒色も混じります。集団でいることが多く人に気が付くと一斉に飛び去ります。そのアトリが近寄っても逃げません。なぜか？ よくよく観察すると、クマシデの種を食べていたのです。私の存在に気が付かないほどおいしいのでしょう。

春先、真っ黒になった頭の羽根(オス)を見るのが楽しみな野鳥です。

(若林)

